

第4回仙台市震災復興メモリアル等検討委員会について

第4回検討委員会は、次のとおり開催したいと考えます。

- 会場候補：仙台市役所 本庁舎2階 第1委員会室
- 開催候補日：平成25年12月20日（金）16：00～18：00

- 議 題（予定）

- 1 第3回仙台市震災復興メモリアル等検討委員会の振り返りについて
- 2 東部地域における緑の復興
第2回検討委員会の意見を踏まえた、取り組みの修正案について
- 3 歴史的資産である貞山運河の利活用
第2回検討委員会の意見を踏まえた、取り組みの修正案について
- 4 今後の3.11のあり方、過ごし方について
- 5 その他

■ 第2回仙台市震災復興メモリアル等検討委員会での主なご意見

1 東部地域における緑の復興

〔全体的な視点〕

- なぜやるかを何世代に渡ってしっかりと伝える
- 市民の人が参加するにあたって、共有するビジョンの打ち出し
- 生活の中で使うということを含めてしっかりと伝承するシンボルとしての位置づけ
- 海岸公園の整備構想と連携した取組み
- 震災前の生活を積極的に活用し、記憶を後世に継承する取組みとしての位置づけ

〔景観の再生〕

- 都市近郊の良好な水田景観としての再生
- 景観にも配慮した緑の復興

〔緑地の活用〕

- 出来あがった緑地をどう使うのか
- 出来あがった緑地が愛されて使われる場所とするため、利用のイメージを共有しながらのデザイン
- つくったものを使う、楽しむ仕掛けづくり
- 自分が植えたところが具体的にみえる取組

〔居久根の再生〕

- 農業のあり方と密接に結びついた居久根の再生
- 農村集落の生活と居久根の杜ゾーンとの結び付き
- 擬似的なものとするか、農村生活の再生まで踏み込むのか

2 歴史的資産としての貞山運河の利活用

〔全体的な視点〕

- 後世に伝えていくシンボリックな取組
- スポーツレジャーに限定しない利用
- 400年続いた暮らし・生業の痕跡をどのように残していくのかが重要
- この地域に根付いていた住民の思いを組み入れた取組
- 無くなって初めて分かる思いを未来に繋げることができる取組
- 海や山が身近にある恵まれた地域特性を上手く取り込める仕掛け
- 荒浜小学校の保存と連携した仕掛け

〔仕組み〕

- 市民やNPOなどいろいろな人が関われるような共助・協働の仕組み
- 住民生活や地域の歴史が未曾有の規模で破壊されたことを伝承する仕組み
- 市民が積極的に提案できる仕組み
- パブリックアートとしての仕掛けやアーティストとの連携
- 仙台発の復興文化発信としての整備
- 貴重な生態系の活用も重要

〔その他〕

- 今残っている木々の保存
- 被災した人たちがどのように感じるか不安